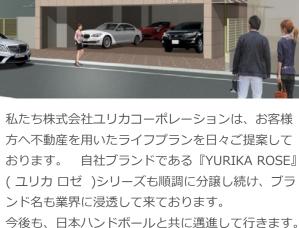
公益財団法人　日本ハンドボール協会 編
平成29年6月1日発行（毎月1回1日発行）　通巻568号

# ハンドボール

6
JUN.2017
No.568

●第41回日本リーグプレーオフ

●2017年度全日本大会レフェリー名簿

公益財団法人　日本ハンドボール協会

代表取締役　青木 理恵

**みなさまの日頃のご搭乗に、心より感謝申し上げます。**
**わたしたちは日本で唯一の5スター エアラインです。**

おかげさまでANAは、2017年も英国のエアライン格付機関SKYTRAX社が主宰するエアライン・スターランキングで世界最高評価「5 STAR」を獲得いたしました。お客さまへの感謝の気持ちと日本で唯一の5スター エアラインとしての誇りを翼に乗せて、これからもみなさまを快適な空の旅にご案内いたします。

ANA Inspiration of JAPAN | A STAR ALLIANCE MEMBER

www.ana.co.jp

5 STAR AIRLINE
SKYTRAX

※2017年3月現在

ハンドボール 6月号 №568

【表紙の写真】第41回日本リーグプレーオフ、男子MVPの木村昌丈選手（大崎電気）

# CONTENTS



**がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」4月入会・継続会員**

【北海道】加藤慶仁【茨城】相澤千代子【埼玉】豊田 武、豊田久恵、山口 亨、山口育子、辻 幸志、辻 七海
【千葉】舎利弗芳子【東京】中澤重夫、角屋圭子【神奈川】久保公雄、久保靖子【石川】酒谷信彦【静岡】宮岸健次【愛知】西川勤也、鈴木和茂【大阪】赤星 明【広島】山下明子、神田雅裕、有田 忍

次号7月号（№569）は7月1日発行予定です。

# 指導普及本部の２年間を振り返って

公益財団法人 日本ハンドボール協会
常務理事 指導普及本部長
三輪 一義

2015年９月の機関誌に巻頭言を掲載してから２年が経とうとしています。２年前に何を掲げて、ここまで何が達成され、何が今後の課題になっているか。２年前の巻頭言を振り返りながら、整理していきたいと思います。

## 1 課題を明確にできたか

当時、指導普及本部が抱える課題について「組織」と「事業」の点から整理することを掲げていましたので、２年を経て現在どうなっているかをまとめます。

### (1) 組織整理

指導普及本部が管轄する12の専門委員会を大きく３つに再編しました。指導部･普及部に加え、新たに育成部を立ち上げ、〈小学生〉〈中学生〉委員会を育成部下に置き、強化を支援するJOC（日本オリンピック委員会）、育成を支援するJSC（日本スポーツ振興センター）の方針に従い、役割分担を明確にしました。また、発掘・育成を担うNTS（ナショナル・トレーニング・システム）委員会と密接に連携を進め、小中学生における指導育成の方策を見直しました。

### (2) 事業内容

組織整理による責任体制の明確化により、それぞれの専門委員会で果たすべき役割とその内容について、現状と課題をまとめながら、具体的方策を進めました。詳細は次項に記します。

## 2 具体的に、やったことは

一般理想論や机上空想論を唱えているだけでは何も動いていきません。また、物事は順序を超えて一足飛びに進んでいくと危うさを伴うこともあります。具体性を持つ取り組みが１つずつ目に見えてくることが必要です。指導普及本部が抱える具体的な課題について、この２年で新たに取り組んだ事柄を明記します。

### （1）指導委員会（藤本元委員長）

1. 指導委員会ホームページの公開　https://jhacan.jimdo.com/

日本協会 HP とは別に、「指導普及育成委員会 HP」として、ホームページを立ち上げました。ここには指導・普及・育成に関する情報が集約しています。世界のハンドボール情報・映像が掲載されている HP 一覧、指導者養成に関する情報、世界のテクニカルレポート等が整理されています。

2. 全国大会決勝映像を公認映像として公開

育成に関わる小中学生の全国大会決勝映像を、公認映像として、YouTube の日本協会指導委員会ページで公開しました。

https://www.youtube.com/channel/UC4Tek6lCMSaxbSqmilSCnCQ

全国小学生大会、春の全国中学生選手権、JOC カップの男女決勝を、全国のハンドボール愛好者の誰でも見ることができ、日本の U-15 トップゲームを全国の誰でも観られることによって、日本の指導レベルアップを図ることをねらいとしています。現在、2015JOC カップ男子決勝映像が 54,781 回の再生数になっています。

3. 強化委員会とのタイアップによる日本代表テクニカルレポート作成

ここまでの日本代表チームの世界大会におけるテクニカルレポートについて、強化委員会と連携して詳細な報告書作成に携わっています。

4. 小学生向けイヤーブックの作成

これからの日本ハンドボール界を担う小学生ハンドボーラーに向けて、手軽に持ち運べて、ハンドボール情報が満載の「イヤーブック」を作成し、小学生登録者全員に配布予定です。

5. 指導委員会全国組織および各都道府県組織の構築

指導委員会組織の全国＆都道府県展開について、各都道府県に指導委員長の設置を依頼し、情報伝達をスムーズに行うために、第 1 回全国指導委員長会議を開催致しました。

6. 公認指導者資格養成講習会ならびに各種研修会の開催

これまでのルーチン事業として、よりレベルアップした養成講習会・研修会の開催を継続しています。

### （2）普及委員会（山本繁委員長）

①学校体育専門委員会（杉森弘幸委員長）

1. 学習指導要領改定期におけるスポーツ庁政策課訪問

10 年ぶりに学習指導要領が改訂されるタイミングで、スポーツ庁を訪問し、ハンドボールが推奨競技として引き続き掲載されるように要望書を提出しました。

2. 授業実践の研究委託

以前からの継続事業になりますが、学校体育授業でハンドボール教材に取り組み、その実践報告をして頂くことに年間 10 万円の委託金支出をしています。

②マスターズ専門委員会（小山哲央委員長）

1. 全国大会規模拡大による運営検討

増加の一途を辿るハンドボール愛好者の大会出場に対して、開催地分散や競技志向ごとの別大会開催など、生涯スポーツとしてのハンドボール大会の在り方の検討に着手しています。

③キャリアサポート専門委員会（東海林祐子委員長）

1. HP に著名選手のハンドボールライフ記事を掲載

全国の女性指導者に「女性指導者の指導環境」に関するアンケート調査を実施した際、「ハンド

ボールアスリートの未来をイメージできるものがない」という意見があったことにより、ハンドボールライフのイメージができるような取り組みを目指し、指導委員会ＨＰに著名選手の協力を頂いてキャリアサポートについて考えるチャンスを設けています。現在は、銘苅淳選手、石立真悠子選手、内林絵美選手にご協力頂いています。

**（3）育成委員会（尾石智洋委員長）**

**①小学生専門委員会（竹内貞明委員長）**

**1.「Ｊクイックハンドボール」導入後の検証作業と新たな課題検討**

Ｊクイックハンドボール導入から２年が経過しますが、その間も全国大会ゲーム様相研究や、各地指導現場の声などを丁寧に吸い上げて、より小学生段階で必要な技術要素の明確化に努めています。

**②中学生専門委員会（齋藤仁宏委員長）**

**1. プロジェクト立ち上げによる検討課題の実行**

中学生専門委員会メンバーを中心として､「ボールサイズ」「ルール･ハード」「技術指導・講習会」「審判基準」「選考・評価」「クラブチーム」「大会開催」「NTS 関連」の８つのプロジェクトを立ち上げ、課題の明確化と役割をはっきりさせ、解決に向けて進んでいます。

**2. 中学生クラブチームカップの日本協会主催大会化**

地域の中学校にハンドボール部がない地区におけるクラブチーム育成を始めとする中学生クラブ問題は、今後日本のハンドボールの根幹に関わってくる課題であると捉え、日本協会の中学生クラブチーム育成に対する方針に沿って、プライベート大会であった中学生クラブチームカップを日本協会主催の全国大会としました。

## 3　NTS委員会との強力な連携

スタートから 18 年目を迎えた NTS は、日本のハンドボール発展のために、強化・指導・審判が一体となって選手の発掘育成に取り組むシステムですが､これまで様々に Brush Up を繰り返し、日本スポーツ振興センターからも大きな評価を得られる事業になっています。

田口隆・前 NTS 委員長（現強化本部長）ならびに金原理博・現 NTS 委員長、河上千秋・現アカデミー委員長と強力に連携し、地方からの選手・指導者の発掘・育成を掌る NTS（ナショナルトレーニングシステム)、全国からの Select Member を計画的に育成する NTA（ナショナルトレーニングアカデミー)、地方に出向いて最新の情報を選手に留まらず指導者・保護者に提供する NTc（ナショナルトレーニングキャラバン）に再編しました。また、NTS のセンタートレーニングにおける招集カテゴリーを、『高校生・中学生』から、『U-16・U-13』にカテゴライズしました。これにより、NTS は新たなステップを踏み始めることとなります。

2020 年東京オリンピックを終えた後も、子ども達を含むハンドボール選手ならびに日本ハンドボール界に、「夢」と「喜び」を与えることができる環境作りを目指して、【指導】【普及】【育成】の観点から、精一杯の努力を続けたいと思います。

ANA CUP

# 第41回日本ハンドボールリーグ
# プレーオフ

第41回日本リーグプレーオフが、男子は3月18、19日に駒沢体育館で、女子は3月25、26日にアクアドーム熊本で行われた。

男子はレギュラーシーズン2位の大崎電気が決勝で同1位の大同特殊鋼を破り、2年連続4回目の優勝を果たした。

女子はレギュラーシーズン1位の北國銀行が同3位の広島メイプルレッズを破り、3年連続4回目の優勝を果たした。

男子優勝 **大崎電気**（2年連続4回目）

（3年連続4回目）**北國銀行** 女子優勝

# 男子 戦評

## 準決勝　大同特殊鋼　25(11－10、14－10)20　湧永製薬

### 大同特殊鋼、３年ぶりプレーオフ進出の湧永製薬をよせつけず

前半、大同特殊鋼のスローオフからゲーム開始。落ち着いたスタートであり、両チームともしっかりとつないで得点。ディフェンスも機能している。大同特殊鋼東江が決めるとすぐ湧永製薬成田が決める、湧永製薬のミスを大同特殊鋼は速攻につなげるが湧永製薬志水が阻止するという一進一退の攻防。大同特殊鋼がじわじわと４点差まで広げたが、退場をきっかけに湧永製薬が点差を縮め、１点差で折り返す。

大同特殊鋼１人退場のまま後半がはじまるも、前半と同じく落ち着いたスタート。この試合最初の 7mT で湧永製薬が同点に追いついたが、両チーム退場者が出る中、大同特殊鋼東江の左手によるシュートで２点差に広げ、徐々に大同特殊鋼がゲームの主導権を握ってくる。湧永製薬はのってきた大同特殊鋼東江を止められず、点差を詰めることができず、悔しい涙をのんだ。

# 男子 戦評

## 準決勝　大崎電気　29(17ー12、12ー13)25　トヨタ車体

### 昨年のプレーオフ決勝の好カード、大崎電気が制す

前半、出だしから速攻が多いスピーディな展開。GK 木村の好セーブからの速攻で大崎電気が先制。お互いに当たりの激しいディフェンスからの速攻での得点を狙う。前半 15 分で大崎電気が 4 点差まで広げ、トヨタ車体はタイムアウトをとるも、大崎電気ディフェンスと GK 木村の好セーブに阻まれ得点できず。トヨタ車体は門山を投入して打開をはかるが、大崎電気も揺るがず、前半は 5 点差で折り返す。

後半立ち上がりすぐに退場者が出るも大崎電気は落ち着いており、つけいる隙を与えない。しかし、7mT を含む渡部の連続得点で流れをつかんだトヨタ車体が 2 点差まで詰め寄る。このトヨタ車体の流れを切ったのが大崎電気小室のワンハンドキャッチからの身を捨てたポストシュート。対するトヨタ車体も藤本のスカイプレーで勢いをつけるが、大崎電気はチームプレーで逃げ切った。

# 男子 戦評

## 決勝　大崎電気　29(19−10、10−16)26　大同特殊鋼

### 王者奪還を狙う大同特殊鋼の挑戦をはねのけ、大崎電気２連覇

前半、両チームともに組織的なディフェンスが機能し、得点が難しいかと思われたが、東長濱の間隙をつくシュートなどで出だしから得点を重ねた大崎電気が４点差まで引き離す。大同特殊鋼タイムアウト後も大崎電気のペースは崩れず、大同特殊鋼のシュートはことごとくゴールに嫌われ、逆に植垣のランニングシュートで勢いづいた大崎電気はリバウンドも確実にものにして点差を広げて前半を終える。

大同特殊鋼はGKを田中に代えて後半に臨む。これが功を奏して大崎電気の得点は止まり、朴のポストプレーに徹する大同特殊鋼が大崎電気に２人退場者を出させるが、大崎電気GK木村に阻まれる。しかし、後半は大同特殊鋼ペースで進み、残り８分で３点差まで詰める。対する大崎電気も、信太、植垣、小澤の連取ですぐさま点差を広げ、ゲームの主導権を譲らず、２連覇を達成した。

JHL
JHL

トイレ
燃やせ闘志!

JHL
molten
For the real game
DAISUKE
MOTOKI

# 女子 戦評

## 準決勝　北國銀行　23(10−7、13−13)20　三重バイオレットアイリス

### 北國銀行の貫禄勝ち

　両チーム共にかたい立ち上がりのなか、北國銀行塩田のミドルで開幕、しかし、両チームのディフェンスの足がよく動き、堅い守りで得点が伸びずロースコアながら一進一退のゲーム展開。残り５分過ぎ、北國銀行がカットインと、速攻２本で、３点リードを奪い、前半を終了。

　後半、５分で速攻４本を含む６得点をあげた北國銀行が、16対８とダブルスコアに点数を広げ、試合を決定づけたかに見えたが、必死に食い下がる三重バイオレットが徐々に点差を詰めていく。しかし、序盤の失点が響き、北國銀行が23対20で逃げ切った。

# 女子 戦評

## 準決勝 広島メイプルレッズ 25(12−11、13−8)19 オムロン

### オムロン地元で苦杯、決勝進めず！

オムロンは吉田のミドルシュートが好調で 7mT スローを含め 4 連続得点。ディフェンスでは広島メイプル李をマンツーマンで守り、開始 10 分までに 5 対 3 と失点を抑えゲームの展開を有利に運ぶ。対する広島メイプルは、オフェンスでは 5 対 5 の局面で笠木が活躍。ステップ・カットインシュート等多彩な攻撃を見せ、26 分 30 秒に同点に追いつくと勢いに乗り 12 対 11 と逆転し折り返す。

後半に入り、広島メイプルは眞継のミドル、オムロンは吉田のミドルで取り返す一進一退の攻防が続いたが、開始 5 分 27 秒にオムロンが退場者を出すと点差が徐々に開き 8 分には 17 対 13 と 4 点差に開く。何とか流れを変えたいオムロンは東濱のミドルや永田のポストで必死に追いかける。一時は 2 点差まで追い上げたが広島メイプルがオムロンのミスに乗じ加点。25 対 19 で逃げ切った。

# 女子 戦評

## 決勝 北國銀行　23(11−8、12−6)14　広島メイプルレッズ

### 北國銀行、粘る広島メイプルを振り切り３連覇達成！

前半、ゲームの序盤から互いに激しい攻防の切り替えが見られ、決勝戦にふさわしい緊迫した試合展開となった。先手を取ったのは広島メイプル。門谷のポスト･李のミドルで得点するとGK板野の好守もありリードを奪う。対する北國銀行は再三のチャンスを阻まれていたが、河田の活躍もあり、14分過ぎに同点に追いつくと、本来のペースを掴み11対８の３点リードで折り返す。

後半に入り早めに点差を詰めたい広島メイプルはディフェンスラインを上げ激しくアタック。オフェンスではポストを絡め攻撃の幅を広げ得点を試みるが、北國銀行GK寺田の好守もあり単発で李のミドルが決まるがなかなか連続得点できない。その間、北國銀行は堅守からの速攻、オフェンスではミドル・カットイン・サイドシュート・スカイプレー等多彩な攻撃を見せ順調に点差を広げ、23対14で３連覇を飾った。

UNISYS
8
サニクリーン

# 男　子

## 順位表

| 順位 | | 大同 | 大崎 | 車体 | 湧永 | 合成 | 琉球 | 東日本 | 紡織 | 北電 | 数 | 勝 | 分 | 敗 | 得点 | 失点 | 差 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 大同特殊鋼 | | 21 24<br>● ○<br>28 22 | 27 31<br>○ ○<br>22 28 | 20 22<br>△ ○<br>20 19 | 28 24<br>○ ○<br>25 23 | 31 33<br>○ ○<br>30 24 | 27 25<br>○ ○<br>26 22 | 32 29<br>○ ○<br>24 22 | 28 27<br>○ ○<br>18 20 | 16 | 14 | 1 | 1 | 429 | 373 | 56 | 29 |
| 2 | 大崎電気 | 28 22<br>○ ●<br>21 24 | | 30 29<br>○ ○<br>23 24 | 24 21<br>△ ●<br>24 33 | 27 29<br>● ○<br>30 24 | 26 29<br>○ ○<br>21 20 | 29 30<br>○ ○<br>23 23 | 24 20<br>○ △<br>19 20 | 36 35<br>○ ○<br>31 26 | 16 | 11 | 2 | 3 | 439 | 386 | 53 | 24 |
| 3 | トヨタ車体 | 22 28<br>● ●<br>27 31 | 23 24<br>● ●<br>30 29 | | 29 24<br>○ ●<br>24 28 | 29 31<br>○ ○<br>27 30 | 37 28<br>○ ○<br>29 26 | 30 28<br>○ ○<br>24 22 | 39 32<br>○ ○<br>26 24 | 28 33<br>○ ○<br>24 25 | 16 | 11 | 0 | 5 | 465 | 426 | 39 | 22 |
| 4 | 湧永製薬 | 20 19<br>△ ●<br>20 22 | 24 33<br>△ ○<br>24 21 | 24 28<br>● ○<br>29 24 | | 30 25<br>○ ○<br>24 22 | 23 28<br>● ○<br>34 27 | 25 21<br>○ △<br>24 21 | 24 19<br>○ ●<br>23 22 | 26 24<br>○ ○<br>25 19 | 16 | 9 | 3 | 4 | 393 | 381 | 12 | 21 |
| 5 | 豊田合成 | 25 23<br>● ●<br>28 24 | 30 24<br>○ ●<br>27 29 | 27 30<br>● ●<br>29 31 | 24 22<br>● ●<br>30 25 | | 27 24<br>● ○<br>30 17 | 33 29<br>○ △<br>25 29 | 27 31<br>○ ○<br>19 27 | 27 27<br>○ ○<br>22 22 | 16 | 7 | 1 | 8 | 430 | 414 | 16 | 15 |
| 6 | 琉球コラソン | 30 24<br>● ●<br>31 33 | 21 20<br>● ●<br>26 29 | 29 26<br>● ●<br>37 28 | 34 27<br>○ ●<br>23 28 | 30 17<br>○ ●<br>27 24 | | 31 26<br>△ ○<br>31 25 | 28 31<br>○ ○<br>24 27 | 29 34<br>○ ○<br>26 23 | 16 | 7 | 1 | 8 | 437 | 442 | -5 | 15 |
| 7 | トヨタ自動車<br>東日本 | 26 22<br>● ●<br>27 25 | 23 23<br>● ●<br>29 30 | 24 22<br>● ●<br>30 28 | 24 21<br>● △<br>25 21 | 25 29<br>● △<br>33 29 | 31 25<br>△ ●<br>31 26 | | 31 32<br>○ ○<br>20 24 | 31 31<br>○ ○<br>21 20 | 16 | 4 | 3 | 9 | 420 | 419 | 1 | 11 |
| 8 | トヨタ紡織<br>九州 | 24 22<br>● ●<br>32 29 | 19 20<br>● △<br>24 20 | 26 24<br>● ●<br>39 32 | 23 22<br>● ○<br>24 19 | 19 27<br>● ●<br>27 31 | 24 27<br>● ●<br>28 31 | 20 24<br>● ●<br>31 32 | | 27 27<br>○ ○<br>20 22 | 16 | 3 | 1 | 12 | 375 | 441 | -66 | 7 |
| 9 | 北陸電力 | 18 20<br>● ●<br>28 27 | 31 26<br>● ●<br>36 35 | 24 25<br>● ●<br>28 33 | 25 19<br>● ●<br>26 24 | 22 22<br>● ●<br>27 27 | 26 23<br>● ●<br>29 34 | 21 20<br>● ●<br>31 31 | 20 22<br>● ●<br>27 27 | | 16 | 0 | 0 | 16 | 364 | 470 | -106 | 0 |

## 個人表彰

〈プレーオフ表彰〉

| | | |
|---|---|---|
| 最優秀監督賞 | 岩本真典（大崎電気） | 3 回目 |
| 最高殊勲選手賞 | 木村昌丈（大崎電気） | 2 回目 |
| 殊勲選手賞 | 東江雄斗（大同特殊鋼） | 初 |

〈レギュラーシーズン表彰〉

| | | |
|---|---|---|
| 最優秀選手賞 | 東江雄斗（大同特殊鋼） | 初 |
| 最優秀新人賞 | 牧山仁志（琉球コラソン） | |
| ベストセブン賞 | 木村昌丈（大崎電気） | 初 |
| | 東江雄斗（大同特殊鋼） | 初 |
| | 趙　顯章（琉球コラソン） | 初 |
| | 信太弘樹（大崎電気） | 2 回目 |
| | 朴　重奎（大同特殊鋼） | 2 回目 |
| | 藤本純季（トヨタ車体） | 2 回目 |
| | 渡部　仁（トヨタ車体） | 2 回目 |
| ベストディフェンダー賞 | 千々波英明（大同特殊鋼） | 2 回目 |
| 得点王 | 東江雄斗（大同特殊鋼）　120 点 | 初 |
| フィールド得点賞 | 趙　顯章（琉球コラソン）　101 点 | 初 |
| シュート率賞 | 渡部　仁（トヨタ車体）　0.660 | 初 |
| 7m スロー得点賞 | 鈴木　済（トヨタ紡織九州）　29 点 | 初 |
| 7m スロー阻止率賞 | 下野隆雄（トヨタ紡織九州）　0.297（11 ／ 37） | 初 |
| シュート阻止率賞 | 岩下祐太（トヨタ紡織九州）　0.387（184 ／ 476） | 初 |
| フェアプレー賞 | トヨタ自動車東日本　71 点／ 16 試合（4.438 点／試合） | |

# 女　子

## 順位表

| 順位 | | 北國銀行 | オムロン | メイプル | 三重 | ソニー | 名古屋 | 高山 | 数 | 勝 | 分 | 敗 | 得点 | 失点 | 差 | 点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 北國銀行 | | 26 27 26<br>○ ○ ○<br>20 16 19 | 24 22 29<br>○ ○ ○<br>18 17 27 | 30 29 18<br>○ ○ ○<br>19 13 14 | 30 26 25<br>○ ○ ○<br>15 21 21 | 27 25 36<br>○ ○ ○<br>16 16 13 | 29 23 34<br>○ ○ ○<br>14 15 16 | 18 | 18 | 0 | 0 | 486 | 310 | 176 | 36 |
| 2 | オムロン | 20 16 19<br>● ● ●<br>26 27 26 | | 28 16 18<br>○ ● ●<br>21 17 24 | 24 19 24<br>○ ○ ○<br>17 16 22 | 20 25 20<br>○ ○ ●<br>15 21 22 | 25 28 21<br>○ ○ ○<br>17 16 14 | 17 27 21<br>○ ○ ○<br>16 14 13 | 18 | 12 | 0 | 6 | 388 | 344 | 44 | 24 |
| 3 | 広島<br>メイプルレッズ | 18 17 27<br>● ● ●<br>24 22 29 | 21 17 24<br>● ○ ○<br>28 16 18 | | 13 25 19<br>● ○ ○<br>29 20 15 | 15 22 23<br>● ● △<br>24 23 23 | 20 28 32<br>○ ○ ○<br>16 16 17 | 21 18 26<br>○ ○ ○<br>16 13 18 | 18 | 10 | 1 | 7 | 386 | 367 | 19 | 21 |
| 4 | 三重<br>バイオレット<br>アイリス | 19 13 14<br>● ● ●<br>30 29 18 | 17 16 22<br>● ● ●<br>24 19 24 | 29 20 15<br>○ ● ●<br>13 25 19 | | 23 24 23<br>○ ○ ○<br>19 18 20 | 23 27 25<br>○ ○ ○<br>19 18 13 | 21 20 19<br>○ ● ○<br>16 23 17 | 18 | 9 | 0 | 9 | 370 | 364 | 6 | 18 |
| 5 | ソニーセミコンダ<br>クタマニュファク<br>チャリング | 15 21 21<br>● ● ●<br>30 26 25 | 15 21 22<br>● ● ○<br>20 25 20 | 24 23 23<br>○ ○ △<br>15 22 23 | 19 18 20<br>● ● ●<br>23 24 23 | | 27 21 17<br>○ ○ ●<br>20 20 19 | 16 21 23<br>○ ○ ○<br>14 19 15 | 18 | 8 | 1 | 9 | 367 | 383 | -16 | 17 |
| 6 | HC名古屋 | 16 16 13<br>● ● ●<br>27 25 36 | 17 16 14<br>● ● ●<br>25 28 21 | 16 16 17<br>● ● ●<br>20 28 32 | 19 18 13<br>● ● ●<br>23 27 25 | 20 20 19<br>● ● ○<br>27 21 17 | | 18 20 17<br>○ ○ ●<br>15 17 21 | 18 | 3 | 0 | 15 | 305 | 435 | -130 | 6 |
| 7 | 飛騨高山<br>ブラックブルズ<br>岐阜 | 14 15 16<br>● ● ●<br>29 23 34 | 16 14 13<br>● ● ●<br>17 27 21 | 16 13 18<br>● ● ●<br>21 18 26 | 16 23 17<br>● ○ ●<br>21 20 19 | 14 19 15<br>● ● ●<br>16 21 23 | 15 17 21<br>● ● ○<br>18 20 17 | | 18 | 2 | 0 | 16 | 292 | 391 | -99 | 4 |

## 個人表彰

〈プレーオフ表彰〉

| | | |
|---|---|---|
| 最優秀監督賞 | 荷川取義浩（北國銀行） | 4回目 |
| 最高殊勲選手賞 | 石野実加子（北國銀行） | 初 |
| 殊勲選手賞 | 李　美京（広島メイプルレッズ） | 初 |

〈レギュラーシーズン表彰〉

| | | |
|---|---|---|
| 最優秀選手賞 | 河田知美（北國銀行） | 初 |
| 最優秀新人賞 | 笠原有紗（HC名古屋） | |
| ベストセブン賞 | 寺田三友紀（北國銀行） | 3回目 |
| | 河田知美（北國銀行） | 初 |
| | 横嶋　彩（北國銀行） | 3回目 |
| | 多田仁美（三重バイオレットアイリス） | 初 |
| | 高山智恵（広島メイプルレッズ） | 5回目 |
| | 門谷　舞（広島メイプルレッズ） | 初 |
| | 河嶋英里（三重バイオレットアイリス） | 初 |
| ベストディフェンダー賞 | 塩田沙代（北國銀行） | 3回目 |
| 得点王 | 横嶋　彩（北國銀行）　92点 | 2回目 |
| フィールド得点賞 | 河田知美（北國銀行）　75点 | 初 |
| シュート率賞 | 門谷　舞（広島メイプルレッズ）　0.794 | 初 |
| 7mスロー得点賞 | 横嶋　彩（北國銀行）　36点 | 2回目 |
| 7mスロー阻止率賞 | 瀧澤瞳子（HC名古屋）　0.304（7／23） | 初 |
| シュート阻止率賞 | 寺田三友紀（北國銀行）　0.485（245／505） | 初 |
| フェアプレー賞 | 飛騨高山ブラックブルズ岐阜　78点／18試合（4.333点／試合） | |

Official Partner of IHF

［3号球］品番 **H3X5001-BW ¥8,400（本体価格）＋消費税**
［2号球］品番 **H2X5001-BW ¥8,200（本体価格）＋消費税**
国際公認球 検定球 人工皮革 縫い ブルー×ホワイト ラテックスチューブ

www.molten.co.jp

# 2017年度全日本大会レフェリー名簿

（平成29年5月1日）第1版

| 大　会 | 開催地 | 期　日 | 審　判　員　氏　名 | 開催地 |
|---|---|---|---|---|
| 第7回<br>全日本<br>社会人選手権<br>（8ペア） | 福井県<br>福井市<br>永平寺町 | 5月17日<br>～<br>5月21日 | ◎吉田敏明　○岩上浩一郎　○増田克洋<br>河合威廷・臼井　健（協会指名）　池渕智一・檜崎　潔（協会指名）　太田智子・島尻真理子（協会指名）<br>松本光則・南川裕隆（協会指名）　小川至門・内記　徹（協会指名）　荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）<br>駒谷研志・波多野祐介（兵庫）　井口京子・東野流生（東京）　中村太一・吉川純也（茨城）<br>吉田　薫・東　チホ（社会人推薦） | 福井県<br>福井市<br>永平寺町<br>（8） |
| 第30回<br>全国小学生大会<br>（8ペア） | 京都府<br>京田辺市 | 8月3日<br>～<br>8月6日 | ◎佐路清隆　○小山　勉<br>井口京子・東野流生（東京）　天野和義・榎本康隆（埼玉）　町田雄基・吉田　威（山梨）<br>近畿または東海ブロックから　若森紗羅良・山下祐輝（岐阜）　吉田　健・岡野哲裕（京都）<br>北羅雅志・藤本貴啓（大阪）　仁木大輔・弘田睦仁（高知） | 京都府<br>京田辺市<br>（8） |
| 第68回<br>全日本<br>高校選手権<br>（24ペア） | 福島県<br>福島市 | 8月5日<br>～<br>8月10日 | ◎島村浩信　○<br>永春文義・安田　寛（協会指名）　荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　小田健介・鈴木孝明（北海道）<br>亀山耕司・佐々木　優（北海道）　邊　輝哲・工藤和貴（岩手）　森　義則・高階和也（秋田）<br>白旗　成・柳谷諒（宮城）　岩角聖孝・上飯坂　徹（岩手）　伊藤　奨・横山　智（山形）<br>斉木翔平・北野冬馬（神奈川）　林田誓太郎・榛葉　剛（東京）　野川早苗・磯前記世（埼玉）<br>中川英明・大房和男（富山）　桶家秀介・魚川友康（富山）　横嶋信一・櫻井隆光（富山）<br>郡司恵太・森　将太（愛知）　冨田　淳・磯野凌汰（愛知）　早瀬　司・小宮　直（滋賀）<br>山本孝志・山根貴志（島根）　近藤啓司・瀬良耕二（愛媛）　中藤圭佑・倉吉将史（宮崎）<br>大畑俊輔・長谷川将規（三重）　嘉古田奨吾・森下貴文（熊本）　本田　隆・曲山泰一（福島） | 福島県<br>福島市<br>（24） |
| 第22回<br>ジャパン<br>オープン<br>（15ペア） | 福井県<br>福井市<br>永平寺町 | 8月5日<br>～<br>8月8日 | ◎藤井俊朗　○岩上浩一郎　○増田克洋<br>高橋容平・磯部尚志（協会指名）　土橋邦彦・清水啓佑（協会指名）　齊藤祥夫・阿部鉄矢（北海道）<br>石山祐輔・小松悦郎（秋田）　沢崎亮太・宮林龍希（千葉）　金坂英宣・柏　博聡（石川）<br>畑中寛之・梅木信男（岐阜）　軒田隼人・栗田基秀（静岡）　中島　秀・前田隆志（兵庫）<br>秦　隆二・秦　伊織（奈良）　石原秀和・国澤　隆（岡山）　鍋島圭太・澤田英二（高知）<br>前上里亘・知念昌平（沖縄）　中村太一・吉川純也（茨城）　佐藤卓也・園谷健志（福井） | 福井県<br>福井市<br>永平寺町<br>（15） |
| 第46回<br>全国中学校<br>（12ペア） | 沖縄県<br>那覇市<br>豊見城市 | 8月17日<br>～<br>8月20日 | ◎中体連審判長　○福島亮一　○儀間　稔<br>水野　遼・山田祐輔（協会指名）　川端祐貴・今泉暢禎（協会指名）　岩角聖孝・上飯坂徹（岩手）<br>野中　毅・小塙和也（栃木）　町田雄基・吉田　威（山梨）　近藤　悟・吉田博紀（静岡）<br>福永賢一・鳥羽　勇（奈良）　濱田哲雄・森山陽介（高知）　堀川智宏・内海秀昭（大分）<br>川上健一郎・金子慎吾（長崎）　新垣裕己・比嘉育志（沖縄）<br>水津研二・岡田雅央（山口） | 沖縄県<br>那覇市<br>豊見城市<br>（12） |
| 第71回<br>国民体育大会<br>（18ペア） | 愛媛県<br>西条市<br>松山市 | 10月5日<br>～<br>10月9日 | ◎藤井俊朗　○武智誠治<br>松本光則・南川裕隆（協会指名）　福島亮一・重村達浩（協会指名）　小田健介・鈴木孝明（北海道）<br>森　義則・高階和也（秋田）　村田　哲郎・明木　源（東京）　岡　裕之・東出拓也（石川）<br>加藤俊宏・小濵沙也香（愛知）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）　木下豪人・竹之下晴彦（和歌山）<br>佐々木皇介・馬場智也（広島）　石原秀和・国澤　隆（岡山）　大西健太郎・松本勇樹（香川）<br>青木忠久・原口佳也（長崎）　米村宏之・樋口　聡（熊本）　仲野和也・藤坂明雄（福井）<br>森實岳史・井関　敦（愛媛）　田中　愛・梶原智子（愛媛）　河野翔保・小笠原龍太（愛媛） | 愛媛県<br>西条市<br>松山市<br>（18） |
| 男子第60回<br>女子第53回<br>全日本<br>学生選手権<br>（16ペア） | 石川県<br>金沢市 | 11月3日<br>～<br>11月7日 | ◎高野　修　○岩上浩一郎　○阿部羅大造<br>太田智子・島尻真理子（協会指名）　荒尾祐治・桜庭正明（協会指名）　田中　潤・河合　哲（香川）<br>合田享弘・橋本　賢（北海道）　大沢　勝・谷藤　航（岩手）　岡　裕之・東出拓也（石川）<br>伊東史裕・菅原圭悟（神奈川）　東海学連1ペア　辻岡洋祐・横山　航（大阪）<br>藤本靖雄・西村隆典（山口）　宮崎和彦・篠田政明（大分）　森山海里・髙橋ひかり（長野）<br>金坂英宣・柏　博聡（石川）　徳光明博・高田哲洋（石川）　吉村あゆみ・奥村紗里（石川）<br>桶家秀介・魚川友康（富山） | 石川県<br>金沢市<br>（16） |
| 第69回<br>日本選手権<br>（12ペア） | 大阪府他 | 12月19日<br>～<br>12月24日 | ◎藤井俊朗　○仲田　稔　○浜田浩和　○小山　勉<br>日本協会競技本部で選出 | 大阪府他<br>（12） |
| 第26回<br>JOCカップ<br>（14ペア） | 沖縄県<br>浦添市<br>那覇市 | 12月23日<br>～<br>12月27日 | ◎中体連審判長　○福島亮一　○儀間　稔<br>日本協会指名2ペア　日本協会指名2ペア<br>篠原　理・石垣正樹（北海道）　横川賢一・村田紀子（栃木）　森山海里・髙橋ひかり（長野）<br>芝田健一・砂川　匠（三重）　北山力也・貝田良寛（兵庫）　太田直希・西山周良（京都）<br>青江活茂・所　努（岡山）　山地　翔・川内健矢（香川）　海江田貴嗣・積　芳広（鹿児島）<br>井手・村山（福岡）　和久長義・後藤　拓（埼玉）　比嘉由紀乃・玉城加奈恵（沖縄） | 沖縄県<br>浦添市<br>那覇市<br>（14） |
| 第13回<br>春の全国<br>中学生選手権<br>（18ペア） | 富山県<br>氷見市 | 3月25日<br>～<br>3月29日 | ◎藤井俊朗　○中体連審判長　○岩上浩一郎<br>水野　遼・山田祐輔（協会指名）　高橋容平・磯部尚志（協会指名）　高橋良周・中里雄太（青森）<br>荒井啓貴・猪股洋一（宮城）　井口京子・東野流生（東京）　天野和義・榎本康隆（埼玉）<br>関　博隆・寺田良太（茨城）　山口真史・酒井孝太（石川）　伊藤翁一・大嶋　賢（富山）<br>吉村あゆみ・奥村紗里（石川）　貝沼圭吾・須原幸一（三重）　深見忠司・伊藤誠祐（愛知）<br>各務宗孝・森　裕太（岐阜）　近藤寛之・古山由樹（大阪）　高橋知滉・木下智晴（大阪）<br>井上諒太郎・横山大介（滋賀）　竹安末央・浜田倫暢（鳥取）　天野誠司・松村和紀（徳島） | 富山県<br>氷見市<br>（18） |
| 第41回<br>全国高校選抜<br>（18ペア） | 兵庫県<br>神戸市<br>加古川市<br>高砂市 | 3月24日<br>～<br>3月29日 | ◎島村浩信　○<br>永春文義・安田　寛（協会指名）　河合威廷・臼井　健（協会指名）　合田享弘・橋本　賢（北海道）<br>邊輝　哲・工藤和貴（岩手）　山口悠歩・金井匡司（群馬）　城戸佑太・東川泰斗（福井）<br>糸井亮太・大石　剛（愛知）　佐藤和幸・井上実奈子（静岡）　千種直也・上野　理（三重）<br>大東賢典・森　達哉（滋賀）　太田直希・西山周良（京都）　駒谷研志・波多野祐介（兵庫）<br>藤本靖雄・西村隆典（山口）　森山　透・吉岡真太郎（広島）　鍋島圭太・澤田英二（高知）<br>森實岳史・井関　敦（愛媛）　神田史郎・小牟禮竜太（鹿児島）　岡村敏行・濱口雄飛（兵庫） | 兵庫県<br>神戸市<br>加古川市<br>高砂市<br>（18） |

# チームの再スタート　宮古島市ジュニアチーム

宮古島市ジュニアハンドボールチーム代表　上里 祐樹

2007 年、宮古島市ハンドボール協会が「底辺拡大」「競技の普及」を目的として、「宮古島市ジュニアハンドボールチーム」を立ち上げました。発足１年目は、各学校から他の部活動も兼ねた身体能力の高い子が集まり、年間を通して週１回の練習を進めることができました。また、島内でのリーグ戦や沖縄本島で開催された大会にも出場し、１年目としてはまずまずの好スタートをきることができました。

発足当初は、勢いのあったジュニアチームでしたが、２年目以降から活動部員が徐々に減りはじめ、部員が２～３名の年や、部員が集まらず活動休止に追い込まれた厳しい時期もありました。その原因として次の２つのことが考えられます。

１つ目は「宮古島でのハンドボールの認知度が低い」ということです。宮古島の小学校では、「バレーボール」「ミニバスケットボール」「野球」「サッカー」が盛んに行われており、沖縄県を代表して全国大会へ出場する競技も幾つか見られます。そのような認知度の高い競技が島内で普及している中で、ハンドボールを各学校に普及させ、部員を集めるというのは大変厳しいものがありました。

２つ目は「指導者不足」ということです。私自身、小学校教諭として宮古地区の小学校で勤務していますが、島内ではハンドボールの指導に関われる小学校教諭が非常に少なく、勤務校の子どもたちを集めることで精一杯でした。

活動休止が数年続いたジュニアチームでしたが、その課題を解決していったのは、地元出身のハンドボール経験者でした。地元出身者が少しずつ帰島し、協会関係者が増えてきたことをきっかけに 2014 年度に指導者を増員。チームの再スタートを切ることができました。新しい取り組みとして、地元のテレビ局や、新聞社への定期的な呼びかけ。ジュニアチームと中学校チームのエキシビジョンマッチの企画。そして、琉球コラソンによるハンドボールスクールの開催といった様々な方法で活動を行ってきました。その結果、ジュニアチームの存在が宮古島で知れわたるようになり、部員の方も各学校から徐々に増え始め、現在では、小学１年生から６年生まで合わせて 25 名近くの部員が集まっています。

また、部員増加のもう１つの理由として、半数近くの保護者がハンドボール経験者ということもありました。ジュニアチームの存在を知った経験者（保護者）が、我が子にハンドボールの楽しさを味わわせたいということで、親子２代でハンドボールに関わる場所ともなっています。

「世代を越えての競技の継承と競技者のつながり」それによって活動休止の危機を乗り越えることができました。また、島内でただ１つの小学生チーム。他の小学生チームと練習や試合ができない為、今年度は１１年ぶりの沖縄本島での大会出場を企画し、目標に向かってより一層ハンドボールを楽しませながら練習に励んでいるところです。

離島には確かにハンデはあります。しかしながら、離島だからこそできる人とのつながりで島のハンドボールは成り立っていると私は考えています。全国の中でも、環境によってチーム発足ができない地域もあるかとは思いますが、小さなつながりを最大限に活用して、何かスタートをきってみてはいかがでしょうか。島内に１チームしかなくとも、子ども達はハンドボールを存分に楽しんでいます。

宮古島市ジュニアチームの活動の取り組みが、全国のハンドボールの普及のきっかけになることを願っています。

2017 年ジュニアチーム結成式の写真

チャレンジしてみませんか！

# ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト

公益財団法人 日本体育協会 HP より

## JAPAN RISING STAR PROJECT（世界で輝け未来のトップアスリート）

https://www.j-star.info/

### JAPAN RISING STAR PROJECT って何？

将来性の豊かな地域のスポーツタレント又はアスリートから、メダル獲得の潜在能力を有するメダルポテンシャルアスリートとなり得る人材を発掘するプログラムです。

### 事業概要

平成 29 年 4 月より開始された第 2 期スポーツ基本計画及び平成 28 年 10 月に発表した「競技力強化のための今後の支援方針（鈴木プラン）」では、アスリートの発掘が重要な課題として位置付けられました。このことから、本年度、公益財団法人日本体育協会（以下、「日体協」）は、独立行政法人日本スポーツ振興センターから委託を受け、「競技力向上事業」の一環として、全国の将来性豊かなアスリートを発掘するためのプロジェクト「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」を実施いたします。
日体協は、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会などの関係団体と連携して全国各地で発掘プログラムを展開し、競技毎に拠点となる都道府県（以下、「拠点県」）にて、世界レベルの指導者とともに合宿形式でのトレーニング等を行います。
本プロジェクトを通じて、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて有望なアスリートを発掘し、競技団体の強化育成コースに導きます。

### 対象者

オリンピック競技：
中学生・高校生年代

パラリンピック競技：
中学生年代～ 30 歳代

### 対象競技（平成 29 年度）

| オリンピック競技（7 競技種目） | パラリンピック競技（5 競技種目） |
|---|---|
| 水泳（飛込） | ボッチャ |
| ボート | 水泳 |
| ウェイトリフティング | パワーリフティング |
| ハンドボール | 車いすフェンシング |
| 7 人制ラグビー（女子） | 自転車 |
| 自転車 | （平成 30 年度の対象競技は改めて選定します。） |
| ソフトボール（女子） | |

### 選考フロー

**第１ステージ** ―エントリー受付期間―
平成29年６月１日(木)～7月2日(日)

→ 選考 →

**第２ステージ** ―測定会―
平成29年7月下旬～9月中旬

→ 選考 →

**第３ステージ** ―合宿―
平成29年11月～

### エントリー

エントリーの受付期間は6月1日(木)～7月2日(日)の予定　https://www.j-star.info/entry/form/

### 測定会

**オリンピック競技**

| 日程 | 会場 |
|---|---|
| 7月25日(火) | 北海道立総合体育センター(北海道・札幌市) |
| 7月29日(土) | 東北文化学園大学(宮城県・仙台市) |
| 8月3日(木) | 岡山県総合グラウンド体育館(岡山県・岡山市) |
| 8月5日(土) | 至学館大学(愛知県・大府市) |
| 8月11日(金・祝) | 東総合スポーツセンター(新潟県・新潟市) |
| 8月18日(金) | 高松市総合体育館(香川県・高松市) |
| 8月20日(日) | 大阪体育大学(大阪府・泉南郡熊取町) |
| 8月26日(土) | 日本体育大学(東京都・世田谷区) |
| 9月17日(日) | 福岡大学(福岡県・福岡市) |

**パラリンピック競技**

| 日程 | 会場 |
|---|---|
| 7月30日(日) | 東北文化学園大学(宮城県・仙台市) |
| 8月6日(日) | 至学館大学(愛知県・大府市) |
| 8月13日(日) | 京都市障害者スポーツセンター(京都府・京都市) |
| 9月10日(日) | 障害者スポーツ文化センター(神奈川県・横浜市) |
| 9月18日(月・祝) | 福岡大学(福岡県・福岡市) |

# 著者の小瀬木麻美さんにインタビュー

高校女子ハンドボール部活動を中心に描いた「あざみ野高校女子送球部！」（ポプラ文庫ピュアフル）が５月９日出版されました。これまでハンドボールの漫画は幾つかありますが、数少ない小説の登場であり、著者の小瀬木麻美さんに出版までの経緯などを伺いました。

百足屋ユウコ（ムシカゴグラフィクス）

### これまでもバトミントンを題材にスポーツ小説等を書かれていますが、そもそも小説を書き始めたきっかけは

私は、書店員でもあり、書評を書くことや作家さんとの対談などの機会が多々ありました。その中で知り合った出版関係の方に勧められ、小説を書き始めました。子育てが落ち着き、時間に余裕ができたこともきっかけになったかもしれません。作家になるつもりは無かったのですが、幼い頃から本を読むのは好きでした。書くことができたのは、そのおかげかもしれません。

### ハンドボール競技を知ったのは

私は大学時代（奈良女子大学）にハンドボール部でプレイをしていました。当時は関西学生リーグ２部で、私のポジションはフローターでした。中学時代はバスケット部でしたが、高校進学後にたまたま見かけたハンドボールに憧れいったんは入部しましたが、残念ながら女子部は存続できず、やむなく途中で文化部に移籍しました。このこともあり、大学では、迷わずハンドボール部に入部しました。当時のチームメイトは今でもかけがえのない仲間です。

### どうしてハンドボールを題材としようとしたのでしょうか

本をあまり読まなくなった若い人たちの興味をひき、手にとってもらえる作品にするためにも、スポーツ小説はいい題材だと思っています。以前取り組んだバドミントンが、団体戦であっても個人競技的な要素が強いものであったため、次は団体競技、できれば女子選手を題材にしたいと考え、自身も経験していたハンドボールを選択しました。出版小説の少ないハンドボールの物語を書くことで、『送球』という競技を、少しでも応援できればいいなと思っています。

### ハンドボール競技の魅力、面白さはどのようなところでしょうか

高い運動能力を日々の地道な努力で支え、それをコートで結実させる選手たちの緩急自在な動きにとても魅せられます。また、体の大きな選手だけでなく小柄な選手も活躍できる場面にも心躍ります。走力や頭脳を使って相手を崩すプレイなど小柄でも十分に通用し、大きな選手でなくともしっかりと戦えるところが好きです。又、試合の展開として一度に２点、３点が加算されるような大逆転はなく、１点ずつの地道な積み重ねが勝敗を決することも面白さの一つであり、私にとっては大きな魅力でもあります。

### 主人公は高校２年次の１月で今回の小説は終えていますが、今後の連載等を考えていますか

高校、大学、社会人と、ステージが変わっても、自分の精一杯でさらに高みを目指す、その姿を描いてみたいという希望はあります。2020年の東京オリンピックという、絶好の舞台もありますから。競技とともに、人として成長していく主人公の姿を、私自身が一番楽しみにしているのかもしれません。

### ハンドボールのファンや競技人口を増やすに有効な施策等を伺えればと

見れば面白い競技であることは間違いありませんが、その機会に接するチャンスが少ないように思います。バドミントンなどの他の競技と比べても、地方大会告知や一般の方に観戦を勧める情報に触れる機会が少ないのは残念です。ハンドボール競技に直接関係のない方々に、如何にして試合会場に足を運んで頂くことができるか、工夫も必要と思います。最後に、私の大好きなハンドボール競技の益々の発展を祈念しております。

# 金の卵発掘に期待

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
## Free Throw

　長い間、紙媒体が続いた日本協会の機関誌「ハンドボール」が５月号からホームページ上での閲覧になった。寂しさがある反面、すべてのファンや関係者が身近に感じられることにもなった。賛否両論があるだろうが、これもご時世だろう。楽しく読ませる機関誌としてますます充実した展開になることを期待したい。

　さて、スポーツ庁が2020年東京五輪･パラリンピック、さらにその先を見据えた国家的「金の卵」発掘プロジェクトを発表した。

　名付けて「ジャパン･ライジング･スター･プロジェクト」である。他競技への転向を前提に、全国から将来性豊かな若手選手の発掘を目指す。

　スポーツ庁が昨年秋に発表した強化支援方針の一環。日本体育協会が事業主体となり、日本オリンピック委員会などと連携しながら、都道府県体育協会を通じて周知するという。

　五輪競技は中高校生を対象に、７競技で適性のある“金の卵”を選択する。７競技にボート、ソフトボールなどとともにハンドボールが入ったのは何より喜ばしい。

　６月から参加希望者の応募を始め、インターネットで競技成績や運動能力調査の結果などを添えて申し込む。その後、７月から９月にかけて30メートル走や専門的な能力調査をする測定会を実施。面談などで競技への適性を見極めて絞り込み、合宿などを経てそれぞれの競技団体が強化対象として数人を選ぶという。

　果たしてどれくらいの応募があるか、期待と不安が交錯するが、こうした国家プロジェクトはハンドボール界にとっては、限りなくうれしい。

　五輪の舞台から遠のく球界にとって、一つの刺激を与えることにもなるだろうし、眠っている「原石」が強化の起爆剤になることも楽しみである。

　「未来のメダリスト」発掘の新たな事業。果たしてどんな選手がハンドボールに対して興味を抱いているかも興味深い。

　永続的な強化プランを描き、将来への橋渡し的ともいえる今回のプロジェクト。これをきっかけに球界としても、しっかりとした適性を見極め、素晴らしい人材を見つけてもらいたい。

　東京五輪、前年の女子世界選手権を全国にアピールするためにも、男女の日本代表の強化は欠かせないのはもちろんだが、その先をにらんだ底辺拡大も大きなテーマであるハンドボール界。まずはスポーツファンに関心を持たせることも重要だ。そのためにもこのプロジェクトは、またとないチャンスの一つでもあろう。

　関係する諸団体としっかり連携をしながら、せっかくのプランを確かなものにしていきたいものである。それが未来を明るくすることにもつながってくる。